

長崎大学FD・SDサマーワークショップ

①「新任教授へのメッセージ -長崎大学の課題と展望-

【趣 旨】

FD・SD サマーワークショップは、本学の教職員が、授業改善やコミュニケーション、教育支援等において十分に持ち味を生かせるようになることを目指している。ニーズの高い内容を精選し、実践にすぐにつながる学習形態を取り入れることにより、後期からの業務や授業の改善に効果が期待できる。

【対 象】 平成22年度または23年度に教授になった方

【日 時】 平成23年8月30日(火) 9:30-12:30

【場 所】 文教キャンパス 事務局第2会議室

【概 要】

大学を取り巻く環境がますます厳しくなりつつある今日、長崎大学も研究・教育両面で多くの課題を抱えている。この講座では、新たに教授に昇任された方々や教授として採用された方々とともに、本学全体の状況と今後の展望を共有し、自由な意見交換を通じて、高等教育機関としての本学の充実の方向を考え合った。

【講 師】

片峰 茂 学長
調 漸 理事(危機管理面について)
鳥越 定雄 理事(財務面について)
橋本 健夫 理事(教育面について)
中山 浩次 副学長(研究面について)

【内 容】

- ① 学長からのプレゼンテーションと意見交換(60分)
- ② 研究、財務、教育、人事・組織改革の各担当理事からの報告(各20分) および質疑応答(各5分)

【到達目標】

- ① 長崎大学の直面する課題と今後の展望を共有する
- ② 本学の研究・財務・教育・危機管理の各側面について現況を説明できる
- ③ 長崎大学全体の視野から、第二期中期目標達成への工程を議論し理解する

【主 催】 教務委員会

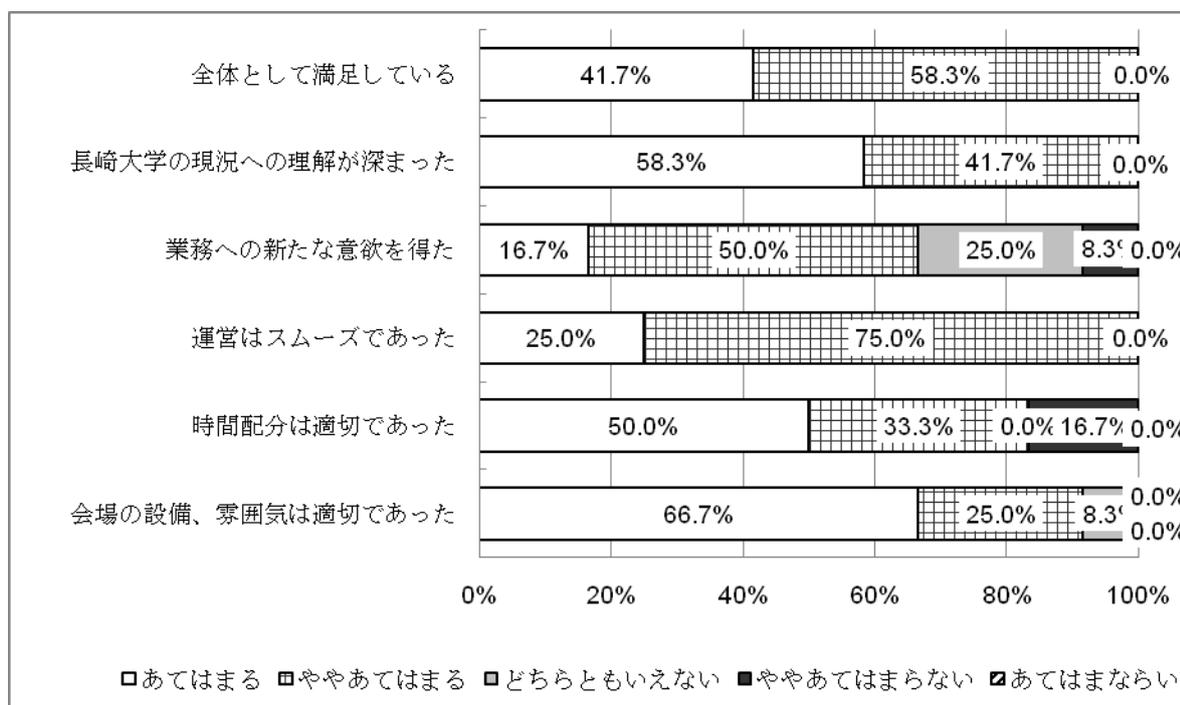
【企画・実施】 評価・FD教育改善専門部会

【参加者】

13名（受講証発行対象者：13名）

所属	職名	人数
経済学部	教授	1
医歯薬学総合研究科（医）	教授	1
医歯薬学総合研究科（保）	教授	2
医歯薬学総合研究科（歯）	教授	2
工学研究科	教授	1
水産・環境科学総合研究科（環）	教授	2
水産・環境科学総合研究科（水）	教授	1
熱帯医学研究所	教授	1
病院	教授	2

【参加者からの評価】



- 本日、お聞きになった内容に関して、何か感想や意見がありましたら、是非率直にご記入下さい。
- ・ 学長との直接的な意見交換は良かった。
 - ・ 学長御自身が大学のビジョンを語られた事はとても有意義なFDであると思う。
 - ・ 時間がなくて質問ができなかった。教育に関するものについてもう少し説明が聞きたかった。このようなFDは意義があると感じた。
 - ・ 大変面白かった。
 - ・ 学長及び各担当理事のお話を直接お聞きできる機会を与えていただいたことは新任教員として今後動いていく上で非常に有意義だったと思う。ありがとうございました。
 - ・ 教授と限らずともよかったのでは？と思った。
 - ・ 科研費の採択率、件数が少ないのは驚きました。大学によっては応募しない教官へのペナルティ等もあると聞く。原因を詳細に分析し対応する必要があると思う。又、積極的に獲得している教官に対してはきちんと評価し、何らかの優遇/評価措置があつて然るべきと思う。
 - ・ ハラスメントに関する話は必要なかった。教養教育の話をもっと詳しく聞きたかった。

○その他、本日の研修に関して、何か感想や意見がありましたら、ぜひご記入ください。

- ・出席者の自己紹介を最初にする方がよかったと思う。
- ・茶話会を30分入れて横のつながりを深める工夫はいかかだろうか。
- ・自己紹介をするのであればそのための時間を設けた方が良かったのではないかな？
- ・学長が重視されている教養教育改革内容について、もう少し詳しく知りたかった。

【総括】

(1) 執行部から直接、教員に語りかける貴重な機会であった

このことについてはいうまでもなく、このワークショップの屋台骨である。ところが日常の職域では、この課題で講師を務められた先生方の考え、それも長崎大学の現状と展望に関する意見を直接、拝聴する機会は意外と少ないものである。したがって、こうしたワークショップの機会があること自体が有意義であるだろうし、参加した教員が今後、自身の職務遂行にあたってさまざまな刺激を受ける機会となったことは、これもまた、言うまでもないだろう。

(2) 「新任教授」に限定する課題なのか、という意見は本質をついている

今回の課題では、対象が新任教授に限定されていた。課題ごとに対象者を定めることは企画する過程では当然のことであろう。この課題では学長・副学長・理事が現状とビジョンを述べられ意見交換ができたわけだが、タイトルにあるように“展望”とは言いつつも、いずれもが遠い将来の事柄ではなく、現在進行形の学生教育と研究に直結するものばかりである。

とすれば、新任教授が受講対象と位置づけられるだけで良いのか、ということは大きな切り口となる。こう書けば、ワークショップに参加するという義務が増えるだろうといったご批判も生まれるかもしれないが、この課題のサブタイトルにある「長崎大学の現状と課題」をどう捉えるのかという点で、新任ではない教授、准教授、助教への情報伝達の方法と機会作りもまた、検討されることも必要だろう。

(3) “ice-break” を効果的にすすめて意見交換を重視するという考え方はどうだろう

最後にアンケートの回答から無視できない部分を見よう。当日は、講師—出席者だけでなく、担当事務方も含めて現場には多くの関係者がいた。ところがアンケートの回答を見ると、「その場にいる人材から発せられる意見の交流」を積極的に取り入れる雰囲気作りがあれば、さらに有意義なものになったとの意見が多い。学長が進める教養教育改革に関する意見交換や理解をこのワークショップを機に深化させることを考えれば、その意味合いは実に重い。この点に関して言えば、企画側が“ice-break”を意識していることは重々、理解していることもあって、ワークショップを企画する段階での工夫がさらに必要だと言えるだろう。

平成23年度FD・SDサマワークショップ参加者一覧(初日)

平成23年8月30日(火)9:30-12:30

[新任教授] 長崎大学の課題と展望 場所:事務局第2会議室

NO	氏名	フリガナ	所属	役職名
1	深浦 厚之	フカウラ アツユキ	経済学部	教授
2	李 桃生	リ タオセン	医歯薬学総合研究科(医)	教授
3	平野 裕子	ヒラノ ユウコ	医歯薬学総合研究科(保)	教授
4	本田 純久	ホンダ スミヒサ	医歯薬学総合研究科(保)	教授
5	真鍋 義孝	マナベ ヨシタカ	医歯薬学総合研究科(歯)	教授
6	渡邊 郁哉	ワタナベ イクヤ	医歯薬学総合研究科(歯)	教授
7	木村 正成	キムラ マサナリ	工学研究科	教授
8	中川 啓	ナカガワ ケイ	水産・環境科学総合研究科(環)	教授
9	西久保 裕彦	ニシクボ ヒロヒコ	水産・環境科学総合研究科(環)	教授
10	亀田 和彦	カメダ カズヒコ	水産・環境科学総合研究科(水)	教授
11	安田 二郎	ヤスタ ジロウ	熱帯医学研究所	教授
12	田崎 修	タサキ オサム	病院	教授
13	浜田 久之	ハマダ ヒサユキ	病院	教授

FD担当者(評価・FD教育改善専門部会委員)

長崎大学FD・SDサマーワークショップ

②「学生の理解と支援のために -A 学生参加の教育改善-」

【趣 旨】

FD・SD サマーワークショップは、本学の教職員が、授業改善やコミュニケーション、教育支援等において十分に持ち味を生かせるようになることを目指している。ニーズの高い内容を精選し、実践にすぐにつながる学習形態を取り入れることにより、後期からの業務や授業の改善に効果が期待できる。

【対 象】 全教職員（非常勤を含む）

【日 時】 平成23年9月2日（金）10:00-12:00

【場 所】 文教キャンパス 事務局第5会議室（教育学部本館2階）

【定 員】 30名

【概 要】

長崎大学では、昨年6月より「学生による教育改善のための協議会」が発足している。各部局から2名～3名の学生が推薦され、主に全学教育と学習環境についての改善案をまとめてきた。この講座では、今日の学生参加の教育改革の状況と、立命館大学での学生FDサミットの報告をもとに、長崎大学で学生の声をより反映させた教育改善システムを創造していく方途を考え合った。

【講 師】

橋本 勝 教授（富山大学）

清水 亮 教授（三重中京大学）

【内 容】

- ① 講師より、学生参加の教育改革についての報告（50分）
- ② 参加者との質疑応答（20分）
- ③ 学生より、協議会の活動と学生FDサミットの報告（20分）
- ④ 参加者との自由な意見交換（30分）

本プログラムには、本学学生4名に加え、北九州市立大学（学生3名）と岡山大学（学生、教員各1名）の参加を得て、セッション内だけでなく終了後の昼食会で学生参加の教育改善の方法について自由に意見交換を行った。

【到達目標】

- ① 国内の学生参加の教育改革について概観を得る
- ② 学生の視点からの教育改善の要望を理解する
- ③ 長崎大学での学生参加の教育改善システムを提案する

【主 催】 教務委員会

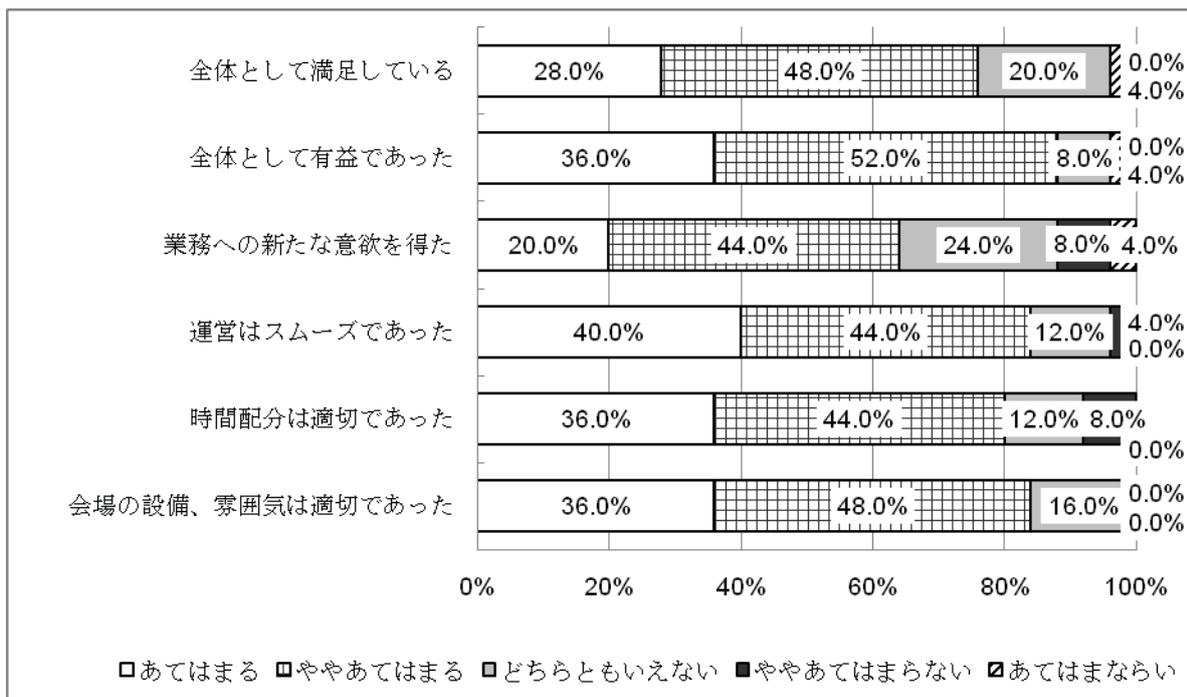
【企画・実施】 評価・FD教育改善専門部会

【参加者】

28名（受講証発行対象者：18名）

所 属	職名	人数
国際連携研究戦略本部	主査	1
	主査	1
学生支援部	主任	1
	課長	1
学術情報部	主査	2
	大学院係長	1
経済学部	係長	1
	主任	1
教育学部	教授	2
経済学部	教授	1
医歯薬学総合研究科（医）	准教授	1
	助教	1
医歯薬学総合研究科（保）	助教	1
医歯薬学総合研究科（薬）	准教授	2
水産・環境科学総合研究科（環）	准教授	1
大学教育機能開発センター	准教授	1
経済学部	学生	1
薬学部	学生	1
工学部	学生	1
水産学部	学生	1
北九州市立大学	学生	3
岡山大学	教員	1
	学生	1

【参加者からの評価】



○今回、参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- ・ 漸進な企画で大変有益であった。(水産・環境総合研究科・准教授)
- ・ 今後の富山大学の橋本勝先生をお招きしたのは大変良かったと思う。私は個人的にはFD 関係の学会で橋本先生の活動を知っていたが、今後もさらに本学に広めてもらいたいことがたくさんある。(教育学部・教授)
- ・ 大学だから出来る教育とは何かを考えるきっかけとなった。(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・ 学生の意欲を高めることにつなげてほしい。(薬学部・准教授)
- ・ もっと、大学、学部の意思決定に関わる人々(教授)の積極的参加を求める。(医歯薬学総合研究科・准教授)
- ・ 役に立ちました。時間にルーズな点のみはカンベンして欲しい。(教育学部・教授)
- ・ このような活動(学生のFD)を初めて知った。職員の中には学生との共同参画を希望している者も多いので是非学内の改革を進めていただければと思う。(図書館・事務職員)
- ・ 毎年、本サマーワークショップにはプログラム内容をスポットして参加している。今回、ベストヒットの感があった。ただ、講師の教員方の一生懸命さに比べ受講者の反応(意見等)が低かったのが残念だった。(経済学部・事務職員)
- ・ 学生との協力の大切さを感じた。(図書館・事務職員)
- ・ いい時間であった。(事務職員)
- ・ いま出来あがろうとしている「学生FD」の様子を知ることができ、大変有用であった。(岡山大学・教員)
- ・ 「他の学生との取り組み」という大きな課題を改めて議論の中で聞き意欲が高まった。様々な団体との関係の大切さを感じる。(北九州市立大学・学生)

○内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入ください。

- ・ 新しい全学教育科目として「長大にあったら良い科目を考える」という授業を設けたらおもしろいのではないだろうか。(教育学部・教授)
- ・ 事務職員が参加できるテーマを増やして欲しい。教育は教員、主導だが、学生支援は教員と職員が協働しなければ出口の保障(成果)は望めない。(経済学部・事務職員)

○今後、FD・SDのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入ください。

- ・ 現状で満足している。教員の参加が少ないのが気付き。本学学生の芽(本日参加学生)をうまく育てて欲しい。(経済学部・事務職員)

【総括】

「学生」の視点から教育改善を考える、本学ではあまり前例のない企画であり、有意義なFDとなった。参加者についても、本学の教員及び職員がほぼ同数ずつの参加となり、また他大学教員、本学及び他大学の学生の参加がみられた点も特筆すべきであろう。本学学生及び他大学学生による活動報告も行われ、貴重な機会となった。

全体の満足度について、「あてはまる」(28.0%)と「ややあてはまる」(48.0%)を合わせると本学参加者(教職員)の4分の3程度が満足していることが確認される。また、有益度については、「あてはまる」(36.0%)と「ややあてはまる」(52.0%)を合わせると本学参加者の9割弱が肯定的な評価を示している。参加した教員、職員及び学生それぞれの関心や予備知識が必ずしも共通でなく、各々が異なる視点・認識からの参加であったためか、参加者間あるいは講師との意見交換が十分には行われなかったようにも思われる。その結果として、参加者の評価にややばらつきがみられたのかもしれない。

一方で、学生も参加した教育改善の継続が重要であることは、他大学の事例や今回のFD参加者のコメントからも確認される。今後、本学において学生による教育改善活動を支援・協働すること、及びそれらを学内構成員に周知することが必要である。あわせて、今後も同様のFDの場を設け、学生と教職員が共に本学の教育改善について考える機会を提供することが求められる。

平成23年度FD・SDサマワークショップ参加者一覧(2日目)(午前)

平成23年9月2日(金)10:00-12:00

[学生]—A 学生参加の教育改善へー 場所:事務局第5会議室

NO	氏名	フリガナ	所属	役職名
1	堀井 健一	ホリイ ケンイチ	教育学部	教授
2	松尾 博臣	マツオ ヒロオミ	教育学部	教授
3	高木 かおる	タカキ カオル	経済学部	教授
4	遠藤 大輔	エンドウ ダイスケ	医歯薬学総合研究科(医)	助教
5	田中 邦彦	タナカ クニヒコ	医歯薬学総合研究科(医)	准教授
6	金丸 由美子	カナマル ユミコ	医歯薬学総合研究科(保)	助教
7	北里 海雄	キタザト カイオ	医歯薬学総合研究科(薬)	准教授
8	近藤 新二	コンドウ シンジ	医歯薬学総合研究科(薬)	准教授
9	岡田 二郎	オカダ ジロウ	水産・環境科学総合研究科(環)	准教授
10	高木 貞治	タカキ テイジ	学術情報部	課長
11	平林 昇	ヒラバヤシ ノボル	学術情報部	主査
12	山本 知美	ヤマモト トモミ	学術情報部	主査
13	多良 安正	タラ ヤスマサ	学生支援部	主任
14	宮原 俊夫	ミヤハラ トシオ	学生支援部	主査
15	岩見 春輔	イワミ シュンスケ	経済学部	大学院係長
16	木附 信慶	キツキ ノブヒコ	経済学部	主任
17	品川 幸夫	シナガワ ユキオ	経済学部	係長
18	富田 高廣	トミタ タカヒロ	国際連携研究戦略本部	主査

FD担当者(評価・FD教育改善専門部会委員)

平成23年9月2日(金)10:00-12:00

[学生]—A 学生参加の教育改善へ— 場所:事務局第5会議室

【ゲスト】

	氏名	所属
1	中村 真理納	経済学部3年
2	中谷 治規	薬学部2年
3	中島 祐樹	水産学部3年
4	松岡 広明	工学部2年
5	高橋 和	岡山大学文学部・3年
6	和賀 崇	岡山大学教育開発センター准教授
7	山本 俊也	北九州市立大学法学部4年
8	中園 卓巳	北九州市立大学法学部4年
9	有高 春介	北九州市立大学経済学部1年

長崎大学FD・SDサマーワークショップ

③「アクティブ・ラーニング講座3 -A 多人数討論型の授業方法-」

【趣 旨】

FD・SD サマーワークショップは、本学の教職員が、授業改善やコミュニケーション、教育支援等において十分に持ち味を生かせるようになることを目指している。ニーズの高い内容を精選し、実践にすぐにつながる学習形態を取り入れることにより、後期からの業務や授業の改善に効果が期待できる。

【対 象】 全教職員（非常勤を含む）

【日 時】 平成23年9月2日（金）13:15-17:30

【場 所】 文教キャンパス 事務局第5会議室（教育学部本館2階）

【定 員】 30名

【概 要】

学生の意欲を高めることは、とくに大人数クラスでは難しいものである。しかし、討論を中心に授業を構成し、学生の意欲を見事に引き出している実践として、「橋本メソッド」が知られている。これは、橋本勝氏によって岡山大学で10年ほど前から始められ、他の大学にも少しずつ浸透してきた学生主体型の授業方法である。本講座は、学生主体型授業の様々な工夫を概観した後、「橋本メソッド」の理念と具体的な技法を習得し、今後の授業設計に応用していただくための機会を提供した。

【講 師】

橋本 勝 教授（富山大学）

清水 亮 教授（三重中京大学）

【内 容】

- ① 講師より、学生主体型授業の総論と事例のプレゼンテーション（60分）
- ② 多人数討論型授業の理念・技法の体験的理解（120分）
- ③ 授業への導入計画立案と質疑応答（60分）

【到達目標】

- ① 多人数・少人数に拘わらず、学生主体型の授業を行う諸工夫を説明できる
- ② 多人数討論型の授業技法を体験的に習得する
- ③ 多人数討論型の形態を取り入れた授業設計ができる

【主 催】 教務委員会

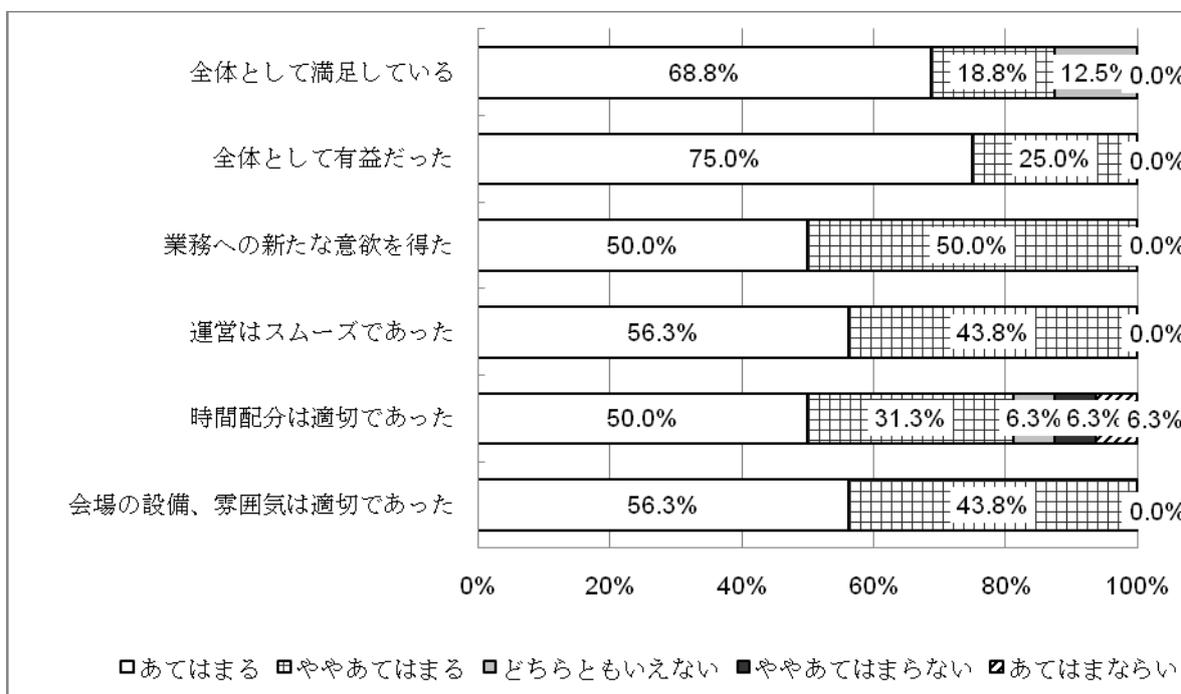
【企画・実施】 評価・FD教育改善専門部会

【参加者】

17名（受講証発行対象者：16名）

所属	職名	人数
教育学部	教授	1
	教授	3
経済学部	准教授	1
	准教授	2
医歯薬学総合研究科（医）	助教	1
医歯薬学総合研究科（保）	助教	3
医歯薬学総合研究科（歯）	教授	1
医歯薬学総合研究科（薬）	准教授	1
水産・環境科学総合研究科（環）	准教授	2
大学教育機能開発センター	准教授	2

【参加者からの評価】



○今回、参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- ・両講師の実践にむけたご努力に敬意を捧す。これらの手法についての研鑽は小、中、高の現場ではより細かくつめられているように感じた。そうしたことがこのような研修という形で取り上げねばならない点に大学の抱える課題の深さを考えさせられた。（教育学部・教授）
- ・理系の授業への取り入れ方が具体的に聞ければもっと良かった。内容はとても参考になった。特に競争して発表チームを選ぶところ。（医歯薬学総合研究科・教授）
- ・時間が長すぎるため、参加しにくい。1時間～1時間半程度におさえて頂くと参加しやすくなる。
- ・困っていた講義のヒントになりそうである。（医歯薬学総合研究科・教授）
- ・全学教育で生かしてほしい。（医歯薬学総合研究科・准教授）
- ・実際の授業のビデオ等が見たかった。（経済学部・准教授）
- ・大変有益でした。今後授業に反映したいと思う。（水産・環境総合研究科・准教授）

○内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入ください。

- ・この質問の意味からも実施される皆様のご苦労も多いものだろう。おつかれさま。（教育学部・教授）

- ・今回の午前と午後が別の話であることが分からなかった。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・学生との協働ができる方法を考えてもらえると有難い。学生とともに参加してみるのも一つの方法と考える。(経済学部・教授)

○今後、FD・SDのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入ください。

- ・「内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入ください」にあるように理系の双方向型授業の例示をみたい。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・PBL 関連のFD を続けて欲しい。(経済学部・教授)

【総括】

全体として満足しているかの設問に対し、「あてはまる」(68.8%)と「ややあてはまる」(18.8%)を合わせると参加者の9割近くが満足していることが確認される。また、全体として有益だったかの設問については、「あてはまる」(75.0%)と「ややあてはまる」(25.0%)を合わせると参加者全員が肯定的な評価を示している。同様に、業務への新たな意欲を得たか、運営はスムーズであったか、及び会場の設備、雰囲気は適切であったかの設問に対しても、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせて参加者全員が肯定評価しており、極めて有意義なFDであったと考えられる。

本FDに関する感想・意見に関する自由記述からも、「内容はとても参考になりました。特に競争して発表チームを選ぶところ。」「困っていた講義のヒントになりそうです。」など、実際に今後の授業に活かすことのできる具体的な示唆に富む内容であったことが確認できる。また、参加者が共に議論・体験することで、内容の理解がより深まったように思われる。

一方で、1講座あたりの時間や時間配分に関する指摘がみられ、今後の企画・運用の課題として工夫の余地がありそうである。

平成23年度FD・SDサマワークショップ参加者一覧(2日目)(午後)

平成23年9月2日(金)13:15-17:30

[アク]ーA 多人数検討型の授業方法ー 場所:事務局第5会議室

NO	氏名	フリガナ	所属	役職名
1	松尾 博臣	マツオ ヒロオミ	教育学部	教授
2	赤石 孝次	アカイシ タカツグ	経済学部	教授
3	高木 かおる	タカキ カオル	経済学部	教授
4	西村 宣彦	ニシムラ ノブヒコ	経済学部	准教授
5	丸山 幸宏	マルヤマ ユキヒロ	経済学部	教授
6	遠藤 大輔	エンドウ ダイスケ	医歯薬学総合研究科(医)	助教
7	田中 邦彦	タナカ クニヒコ	医歯薬学総合研究科(医)	准教授
8	安武 亨	ヤスタケ トオル	医歯薬学総合研究科(医)	准教授
9	金丸 由美子	カナマル ユミコ	医歯薬学総合研究科(保)	助教
10	川崎 涼子	カワサキ リョウコ	医歯薬学総合研究科(保)	助教
11	河村 靖子	カワムラ ヤスコ	医歯薬学総合研究科(保)	助教
12	根本 孝幸	ネモト タカユキ	医歯薬学総合研究科(歯)	教授
13	北里 海雄	キタザト カイオ	医歯薬学総合研究科(薬)	准教授
14	岡田 二郎	オカダ ジロウ	水産・環境科学総合研究科(環)	准教授
15	大橋 絵理	オオハシ エリ	大学教育機能開発センター	准教授
16	劉 卿美	ユウ キョンミ	大学教育機能開発センター	准教授

FD担当者(評価・FD教育改善専門部会委員)

長崎大学FD・SDサマーワークショップ

④「アクティブ・ラーニング講座3 -B 自然科学のPBL事例-」

【趣 旨】

FD・SD サマーワークショップは、本学の教職員が、授業改善やコミュニケーション、教育支援等において十分に持ち味を生かせるようになることを目指している。ニーズの高い内容を精選し、実践にすぐにつながる学習形態を取り入れることにより、後期からの業務や授業の改善に効果が期待できる。

【対 象】 全教職員（非常勤を含む）

【日 時】 平成23年9月5日（月）10:00-12:00

【場 所】 文教キャンパス 事務局第5会議室（教育学部本館2階）

【定 員】 30名

【概 要】

自然科学教育において、PBL（プロジェクト学習）で成果を上げている事例を2件紹介し、授業改善に役立てていただくことを目指した。第1の事例は、「蛙学への招待」と題する少人数演習で、自己効力感の覚醒を目標に、野外調査・解剖・専門家インタビューなどを経て、最後に学生が担当テーマの授業を行った。第2の事例は、「ゴミ論」と題する中人数～大人数の環境教育で、演示実験・実地調査・報告書作成などを経て、最後に振り返りを行った。各事例の試行錯誤の過程や理論的背景の紹介などもあった。

【講 師】

鈴木 誠 教授（北海道大学）

杉本 孝作 教授（四国学院大学）

【内 容】

- ① 2名の講師からの授業改善事例の紹介（30分×2＋討論30分）
- ② 後期授業に向けて、授業改善の工夫を相互に提案・討論（30分）

【到達目標】

- ① 自然科学教育におけるPBL（プロジェクト学習）の重要な構成要素を説明できる
- ② 今後の授業改善の工夫を具体的に挙げるができる

【主 催】 教務委員会

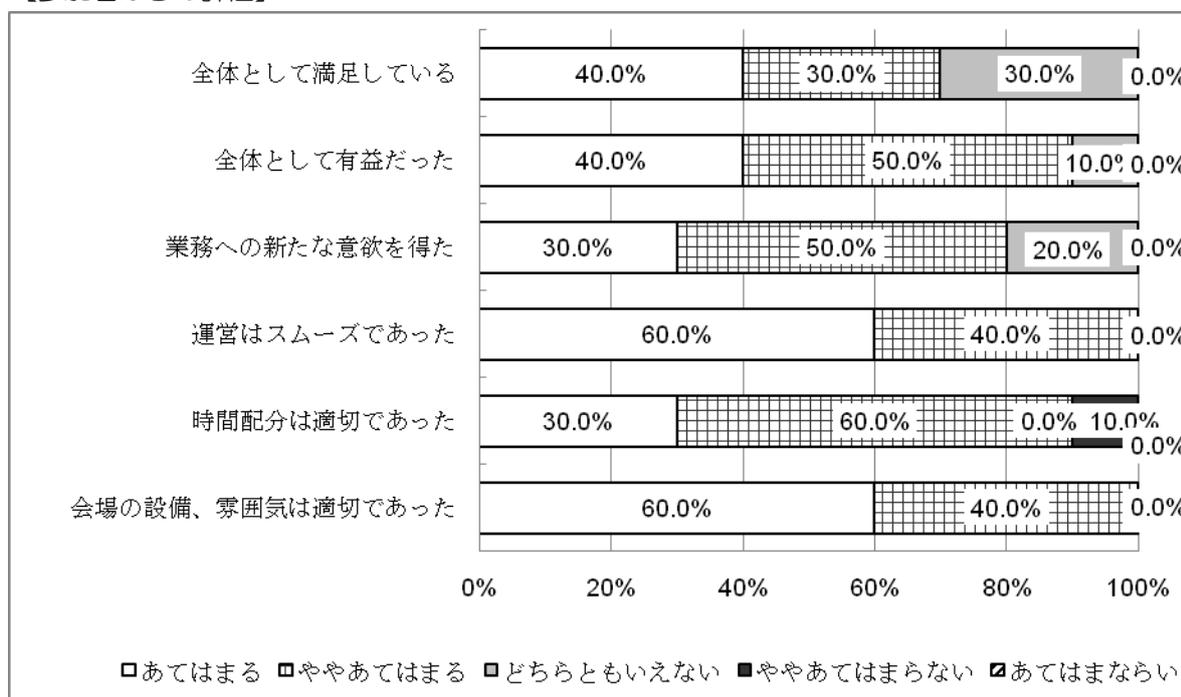
【企画・実施】 評価・FD教育改善専門部会

【参加者】

12名（受講証発行対象者：12名）

所属	職名	人数
医歯薬学総合研究科（医）	教授	1
	助教	3
医歯薬学総合研究科（保）	助教	2
医歯薬学総合研究科（歯）	教授	1
医歯薬学総合研究科（薬）	准教授	1
水産・環境科学総合研究科（環）	准教授	1
大学教育機能開発センター	准教授	1
アドミッションセンター	助教	1
産学官連携戦略本部	助教	1

【参加者からの評価】



○今回、参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- ・そもそもPBLがわかっている人が参加すると参考になりやすいと感じた。諸先生方の話が聞いて勉強になった。（医歯薬学総合研究科・助教）
- ・時間的にタイトであったが有益であった。（水産・環境科学総合研究科・准教授）
- ・専門が異なる具体的話が参考しづらいと思う。（事例の紹介、理論的に普遍性のあるものへの連なりがほしい。）（医歯薬学総合研究科・准教授）
- ・参加する顔ぶれが決まってきた。強制的に参加させる仕組みがあってもいいのでは？例えば昇進のために必要な参加数は何回というふうに。（大教センター・准教授）

○内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入ください。

- ・お二人とも内容的に濃いものであったが、一人一時間は少しタイトだった。（水産・環境科学総合研究科・准教授）

○今後、FD・SDのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入ください。

- ・教養科目ではなく、学部授業（知識をためることが必要な科目）のFDをして欲しい。（教授）

【総括】

定員30名に対して11名と参加者が少なく、テーマが学内の教官ニーズにマッチしていなかったのか、開催方法、周知方法に工夫が必要なのか、今後検討が必要と思われる。内容としては、自然科学教育におけるPBL（プロジェクト学習）実践事例の詳細について講師を招いて2件紹介した。第1の事例は、「蛙学への招待」と題する非常にユニークな取り組みについて紹介されたが、その基礎となる教育学的考え方として自己効力感の覚醒についての示唆に富んだ内容で受講者に非常に有意義であったと思われる。第2の事例は、「ゴミ論」と題する中人数～大人数の環境教育で、演示実験・実地調査・報告書作成などPBL実践上の試行錯誤の過程や理論的背景の紹介がなされ、分野が異なっても有意義な講演内容であったと評価できる。2時間の設定に対して2人の講師の内容の密な講演で、ややタイトな印象を受講者に与えたと思われる。今後長崎での教育改善にどのように生かすことができるか、受講者だけでの討論の時間を設けるとさらによかったのではないかと反省する。

平成23年度FD・SDサマーワークショップ参加者一覧(3日目午前)

平成23年9月5日(月)10:00-12:00

[アク] B 自然科学のPBL事例 場所:事務局第5会議室

NO	氏名	フリガナ	所属	役職名
1	井原 誠	イハラ マコト	医歯薬学総合研究科(医)	助教
2	浦田 芳重	ウラタ ヨシシゲ	医歯薬学総合研究科(医)	助教
3	遠藤 大輔	エンドウ ダイスケ	医歯薬学総合研究科(医)	助教
4	西田 教行	ニシダ ノリユキ	医歯薬学総合研究科(医)	教授
5	金丸 由美子	カナマル ユミコ	医歯薬学総合研究科(保)	助教
6	河村 靖子	カワムラ ヤスコ	医歯薬学総合研究科(保)	助教
7	根本 孝幸	ネモト タカユキ	医歯薬学総合研究科(歯)	教授
8	北里 海雄	キタザト カイオ	医歯薬学総合研究科(薬)	准教授
9	岡田 二郎	オカダ ジロウ	水産・環境科学総合研究科(環)	准教授
10	劉 卿美	ユウ キョンミ	大学教育機能開発センター	准教授
11	池田 光吉	イケダ コウイチ	アドミッションセンター	助教
12	久保 隆	クボ タカシ	産学官連携戦略本部	助教

FD担当者(評価・FD教育改善専門部会委員)

長崎大学FD・SDサマーワークショップ

⑤「アクティブ・ラーニング講座3 -C 学習意欲をデザインする-」

【趣 旨】

FD・SD サマーワークショップは、本学の教職員が、授業改善やコミュニケーション、教育支援等において十分に持ち味を生かせるようになることを目指している。ニーズの高い内容を精選し、実践にすぐにつながる学習形態を取り入れることにより、後期からの業務や授業の改善に効果が期待できる。

【対 象】 全教職員（非常勤を含む）

【日 時】 平成23年9月5日（月）13:15-17:30

【場 所】 文教キャンパス 事務局第5会議室（教育学部本館2階）

【定 員】 30名

【概 要】

学習意欲を高めるには、どのような授業がよいのだろうか？本講座では、動機づけ研究のひとつの統合モデルであるARCSモデルを用いて、注意(Attention)、関連性(Relevance)、自信(Confidence)、満足感(Satisfaction)に着目した授業設計について学んだ。事例紹介や授業技法の解説等を通じて、学習意欲をデザインする具体的な方法を順を追って習得することから、今後の授業設計にすぐに応用できる内容であった。

【講 師】

鈴木 克明 教授（熊本大学）

【内 容】

- ① 講師より、ARCSモデルの総論と活用事例のプレゼンテーション（60分）
- ② 授業技法の体験的理解（120分）
- ③ 授業への導入計画立案と質疑応答（60分）

【到達目標】

- ① ARCSモデルの概要を説明できる
- ② 学習意欲をデザインするためのツール類を活用できる
- ③ ARCSモデルをもとに、学習意欲を高める授業を設計できる

【主 催】 教務委員会

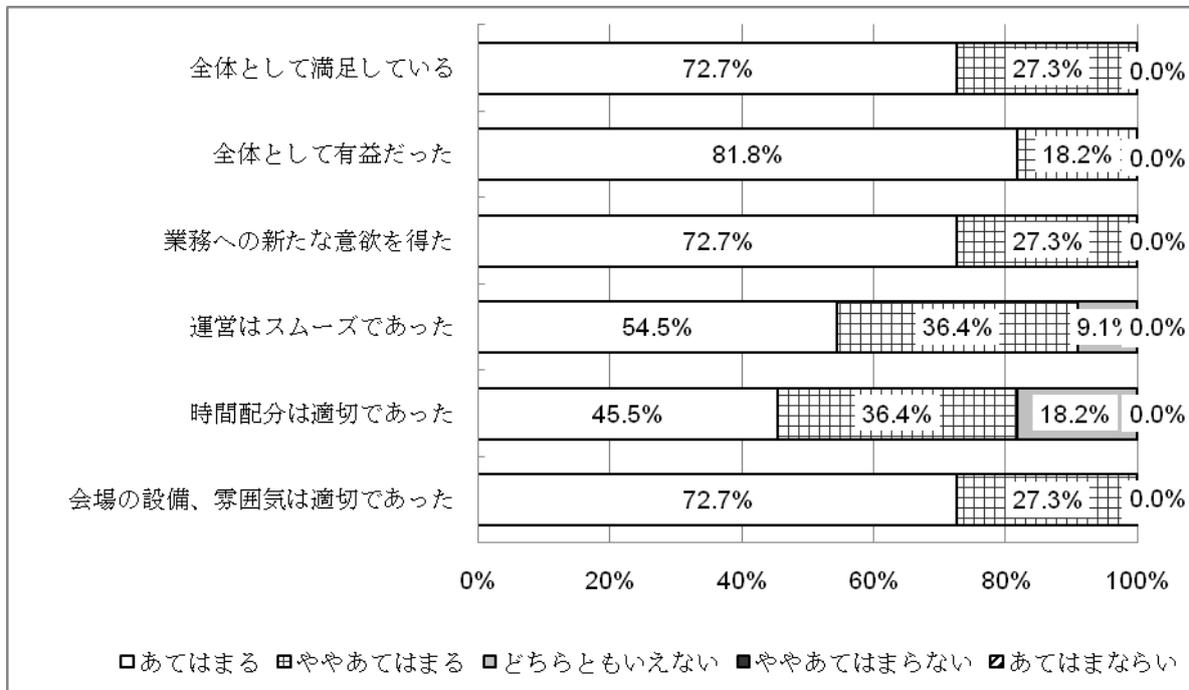
【企画・実施】 評価・FD教育改善専門部会

【参加者】

12名（受講証発行対象者：11名）

所 属	職名	人数
教育学部	教授	1
	准教授	1
経済学部	教授	1
	准教授	1
医歯薬学総合研究科（医）	助教	2
医歯薬学総合研究科（保）	助教	1
医歯薬学総合研究科（歯）	教授	1
工学研究科	准教授	1
水産・環境科学総合研究科（環）	准教授	1
病院	助教	1
大学教育機能開発センター	准教授	1

【参加者からの評価】



○今回、参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- ・実際に自分が担当する講義について皆の意見やアイデアがえられたので、大変有意義であった。（経済学部・准教授）
- ・大変参考になった。ARCS の分類については、よく分かったが、その意義について、もう少し詳しく授業いただければありがたかった。（水産・環境科学総合研究科・准教授）
- ・今後の授業設計の参考になった。（医歯薬学総合研究科・助教）
- ・すぐにでも応用できそうな有意義なワークショップであった。（病院・助教）
- ・提示された内容自体とともに、ファシリテーターとしても有能な方に接しうれしく思った。（教育学部・教授）
- ・具体的に話し合うことができ、分かりやすかった。（医歯薬学総合研究科・助教）
- ・各グループのプレゼンが少し長かった。（医歯薬学総合研究科・教授）

○内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入ください。

- ・このように異なる学部の方に授業の評価を頂くことは大変有意義だと感じたので自分の分の講義だけだったので、多くの人の講義についてもこのような評価の機会があるといいと思う。（経済学部・准教授）

- ・グループ分けが適切であったと思う。(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・もう少し短い時間だと参加しやすいかも知れない。(教育学部・准教授)
- ・内容、時間配分とも適度であった。(病院・助教)
- ・大変御苦労さま。(教育学部・教授)

【総括】

- 1) 参加者が13名と定員の30名に対して少なかった。そのぶん密度の濃いワークショップとなったが、もう少し多く集めた方がよかったと思う。
- 2) 4つのグループに分かれたが、各グループ3〜4名なので必然的に全員が積極的に発言できた。会場となった事務局第5会議室(教育学部本館2階)は小さな部屋でこの人数には丁度よく、グループ間の距離もあまりなくよかったと思う。
- 3) 最初のワークショップでまず学生の立場に立って「講義に積極的になれない理由」を出来るだけ多く考えて、ポストイットに書き出し分類分けをした。自分が考えもしないようなことが出てきてたいへんためになった。学生がこれに参加できると、更に面白い展開になり有意義だろう。
- 4) 講師の鈴木教授には3月にも来学して講演をしていただいております、その時参加した者にとっては、その延長としてのワークショップとなり有意義であった。講師はたいへんフレンドリーで全員がリラックスしてワークショップを作り上げる事が出来た。
- 5) 参加者は少なかったが偏りがなくほとんどの学部から1-2名の参加であった。グループ分けも同じ学部が集まらないように設定され、他学部の教員と教育方法について議論出来る機会が与えられたたいへん有意義であった。
- 6) 各グループで題材となった講義の改善についてのプレゼンテーションがやや長く冗漫であった。もう少し時間を決めて簡潔にまとめることが出来ればよかったと思う。
- 7) 全体に長時間の設定がされていたためか、やや散漫な部分も見受けられた。最後に質問の時間が予定されていたが、時間を過ぎてしまい質疑応答が出来なかった点が残念であった。

平成23年度FD・SDサマーワークショップ参加者一覧(3日目午後)

平成23年9月5日(月)13:15-17:30

[アク] C 学習意欲をデザインする 場所:事務局第5会議室

NO	氏名	フリガナ	所属	役職名
1	寺嶋 浩介	テラシマ コウスケ	教育学部	准教授
2	松尾 博臣	マツオ ヒロオミ	教育学部	教授
3	西村 宣彦	ニシムラ ノブヒコ	経済学部	准教授
4	丸山 幸宏	マルヤマ ユキヒロ	経済学部	教授
5	遠藤 大輔	エンドウ ダイスケ	医歯薬学総合研究科(医)	助教
6	福田 智美	フクダ トモミ	医歯薬学総合研究科(医)	助教
7	金丸 由美子	カナマル ユミコ	医歯薬学総合研究科(保)	助教
8	齋藤 俊行	サイトウ トシユキ	医歯薬学総合研究科(歯)	教授
9	馬越 啓介	ウマコシ ケイスケ	工学研究科	准教授
10	岡田 二郎	オカダ ジロウ	水産・環境科学総合研究科(環)	准教授
11	穂山 直太郎	アキヤマ ナオタロウ	病院	助教

FD担当者(評価・FD教育改善専門部会委員)

長崎大学FD・SDサマーワークショップ

⑥「学生の理解と支援のために -B 長大生の特徴と課題-」

【趣 旨】

FD・SD サマーワークショップは、本学の教職員が、授業改善やコミュニケーション、教育支援等において十分に持ち味を生かせるようになることを目指している。ニーズの高い内容を精選し、実践にすぐにつながる学習形態を取り入れることにより、後期からの業務や授業の改善に効果が期待できる。

【対 象】 全教職員（非常勤を含む）

【日 時】 平成23年9月6日（火）10:00-12:00

【場 所】 文教キャンパス 事務局第5会議室（教育学部本館2階）

【定 員】 30名

【概 要】

日常の授業運営や学生支援においては、今日の長崎大学の学生像を明確に理解しておくことが求められる。本講座では、長大生の入学時の特徴や学力傾向、学生生活上の課題とニーズ、さらに卒業・就職時の課題などについて、具体的なデータをもとに紹介された。一般的な傾向とともに、部局間の差異、経年変化等にも言及し、授業や学生支援での留意点についても取り上げられた。

【講 師】

山口 恭弘 副学長

田井村 明博 副学長

苑田 利弘 就職支援班長

【内 容】

- ① 入試担当副学長より、本学の入試システムと入学生の特徴（学力面含む）について紹介（30分）
- ② 学生担当副学長より、本学学生の学生生活調査や学生相談内容等から、学業面・発達面の課題とニーズを紹介（25分）
- ③ 就職支援班長より、卒業・就職時の課題について紹介（20分）
- ④ 質疑応答と自由討論（45分）

【到達目標】

- ① 本学学生の一般的な特徴について説明できる
- ② 授業運営や学生支援における重要な留意点を挙げるができる

【主 催】 教務委員会

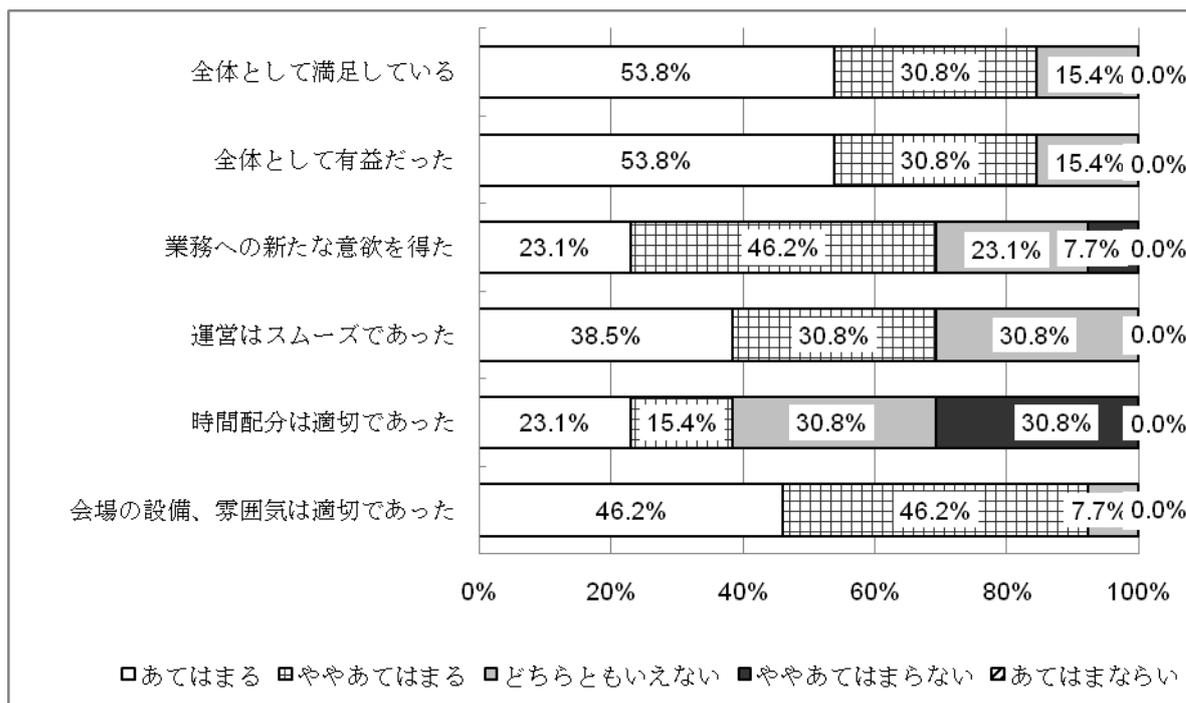
【企画・実施】 評価・FD教育改善専門部会

【参加者】

15名（受講証発行対象者：15名）

所属	職名	人数
国際連携研究戦略本部	主査	1
	主査	1
学生支援部	主任	1
	専門職員	1
学術情報部	課長	1
	主査	1
	事務職員	1
経済学部	大学院係長	1
教育学部	教授	1
医歯薬学総合研究科（医）	准教授	1
	助教	1
医歯薬学総合研究科（歯）	教授	1
医歯薬学総合研究科（薬）	教授	1
	助教	1
水産・環境科学総合研究科（環）	教授	1

【参加者からの評価】



○今回、参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- ・参加者が少ないので増やす努力が必要。（本部・副学長）
- ・色々学ぶことがあり大変勉強になった。ありがとうございました。（環境科学部・教授）
- ・長大生の特徴を以前より理解できた。（事務職員）
- ・入試制度～就職支援まで長大の特徴を理解できた。（医歯薬学総合研究科・助教）
- ・得たいデータであった。興味深く受けさせていただけた。助かった。ありがとうございます。（教育学部・教授）
- ・両副学長の話は興味深かった。（事務職員）

○内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入ください。

- ・盛りだくさんすぎて、少し時間が不足していたと思う。(環境科学部・教授)
- ・12時を過ぎないようにしてほしい。(事務職員)

【総括】

授業運営や学生支援において、現代の長崎大学の学生像を明確に理解しておくことは、非常に有意義である。本講座では、長大生の特徴と課題について、入学時、入学後の学生生活、さらに卒業・就職時の三段階に分けて、それぞれの責任的立場で頑張っておられる3名の講師の先生に、豊富な具体的データに基づいて紹介して頂いた。

私は長崎大学に赴任して約20年が経ち、長大生の典型的な気質(のんびりおとなしくて受動的)がどのようなものに起因するのか非常に疑問であったが、3名の先生方の話で、一般的な傾向を何となく理解できた。部局間の差異、経年変化、および授業や学生支援での留意点についても取り上げられ、今後の学生指導に有効に活用したい。特に、長大生の英語力がやや劣っているようで、CALLシステムの活用やTOEICの目標点設定などの効果に期待したい。長大生の気質については、長崎特有の土地柄もあり、また高校の進路指導にうまく乗せられてきている学生も多いようなので、こちらですぐに変えられるものではないが、入試の充実が大きなキーポイントになるように感じた。また、掲示を見ない学生への積極的な解決策など、今後の学生への対応を考えると、頭が痛くなるような内容も多かった。長大生の課題について現状の理解は可能だが、解決策となるとなかなか難しい。しかしながら、問題点が共有できただけでも有意義であった。

本講座の参加者は13名(教員5名、職員8名)とやや少なく、休憩もない長時間の講演となったが、皆さん真剣に聴講されていた。アンケート結果からも、全体として満足で、有益であったと評価され、大変勉強になったという意見が多かった。しかしながら、評価・FD教育改善専門部会の委員が、FDのサポートをする初めての試みであったので、本講座の進行を、要領を得ないまま担当してしまったため、アンケート結果でも明らかなように、時間配分や運営については課題が残るような結果であった。下記の課題については、今後の長崎大学FD・SD運営の際には改善していきたい。

〈今後の課題〉

- ・講師の先生方と、時間配分や進行について、事前に入念な打ち合わせができれば良かった。
- ・司会が時間厳守をアナウンスし、演者の先生方に時間配分を十分に意識させるべきだった。最後の、質疑応答と自由討論を実施できずに、非常に残念であった。
- ・講演内容としては盛りだくさんで、2時間は短いように思えた。また、休憩をはさむべきだったと思う。
- ・グループワークを実施する必要はなかったが、参加者の簡単な自己紹介(FDの参加理由など)をする時間が取れたら良かった。
- ・質疑応答と自由討論(実際には実施する時間は無かったが)をスムーズに進行させるため、参加者に質疑や検討したい事項を書いてもらっておくと良かったかもしれない。
- ・長崎大学FD・SD全体に言えることだが、参加者が非常に少ない。広報も工夫の余地はあるかもしれないが、限界がある。教職員に対しては、年間のFD・SD受講回数目標を設定する必要があるかもしれない。

平成23年度FD・SDサマーワークショップ参加者一覧(4日目午前)

平成23年9月6日(火)10:00-12:00

[学生] B 長大生の特徴と課題 場所:事務局第5会議室

NO	氏名	フリガナ	所属	役職名
1	松尾 博臣	マツオ ヒロオミ	教育学部	教授
2	遠藤 大輔	エンドウ ダイスケ	医歯薬学総合研究科(医)	助教
3	久保 嘉直	クボ ヨシナオ	医歯薬学総合研究科(医)	准教授
4	池田 通	イケダ トオル	医歯薬学総合研究科(歯)	教授
5	西田 孝洋	ニシダ コウヨウ	医歯薬学総合研究科(薬)	教授
6	宮元 敬天	ミヤモト ヒロタカ	医歯薬学総合研究科(薬)	助教
7	西久保 裕彦	ニシクボ ヒロヒコ	水産・環境科学総合研究科(環)	教授
8	高木 貞治	タカキ テイジ	学術情報部	課長
9	山本 知美	ヤマモト トモミ	学術情報部	主査
10	杉本 博幸	スギモト ヒロユキ	学生支援部	専門職員
11	多良 安正	タラ ヤスマサ	学生支援部	主任
12	岩見 春輔	イワミ シュンスケ	経済学部	大学院係長
13	富田 高廣	トミタ タカヒロ	国際連携研究戦略本部	主査
14	後藤 史彦	ゴトウ フミヒコ	学術情報部	事務職員
15	宮原 俊夫	ミヤハラ トシオ	学生支援部	主査

FD担当者(評価・FD教育改善専門部会委員)

長崎大学FD・SDサマーワークショップ

⑦「新任教員へのメッセージ -A 授業創造入門-」

【趣 旨】

FD・SD サマーワークショップは、本学の教職員が、授業改善やコミュニケーション、教育支援等において十分に持ち味を生かせるようになることを目指している。ニーズの高い内容を精選し、実践にすぐにつながる学習形態を取り入れることにより、後期からの業務や授業の改善に効果が期待できる。

【対 象】 おもに新任教員が対象ですが、どなたでも参加できます

【日 時】 平成23年9月6日（火）13:15-15:30

【場 所】 文教キャンパス 事務局第5会議室（教育学部本館2階）

【定 員】 30名

【概 要】

初めて授業を担当される方、また授業方法を再考してみたい方を対象に、この講座では授業創造の基礎的事項を概観した。授業設計から始め、授業方法の様々、学習評価や授業評価の方法、授業記録の順に、各局面での留意点を取り上げた。事前に、参加予定者の方から授業づくりに関する疑問や関心等をお聞きして、それらを焦点にした意見交換を行った。

【講 師】

山地 弘起 准教授（大学教育機能開発センター）

【内 容】

- ① 授業の設計（全学共有学士像、カリキュラム内の位置づけ、シラバスの書き方、NU-Web、TA）
- ② 授業の方法（教授法、教材、予復習課題）
- ③ 学習の評価（教育評価の基礎、成績評価、学習者アンケート）
- ④ 授業の評価（授業日誌、公開授業、学生による授業評価）
- ⑤ 授業の記録（授業実施記録、ティーチング・ポートフォリオ、成績資料の保存）

【到達目標】

- ① 授業創造のプロセスを概説できる
- ② 担当授業の改善に向けて、具体的な手立てを考え出すことができる

【主 催】 教務委員会

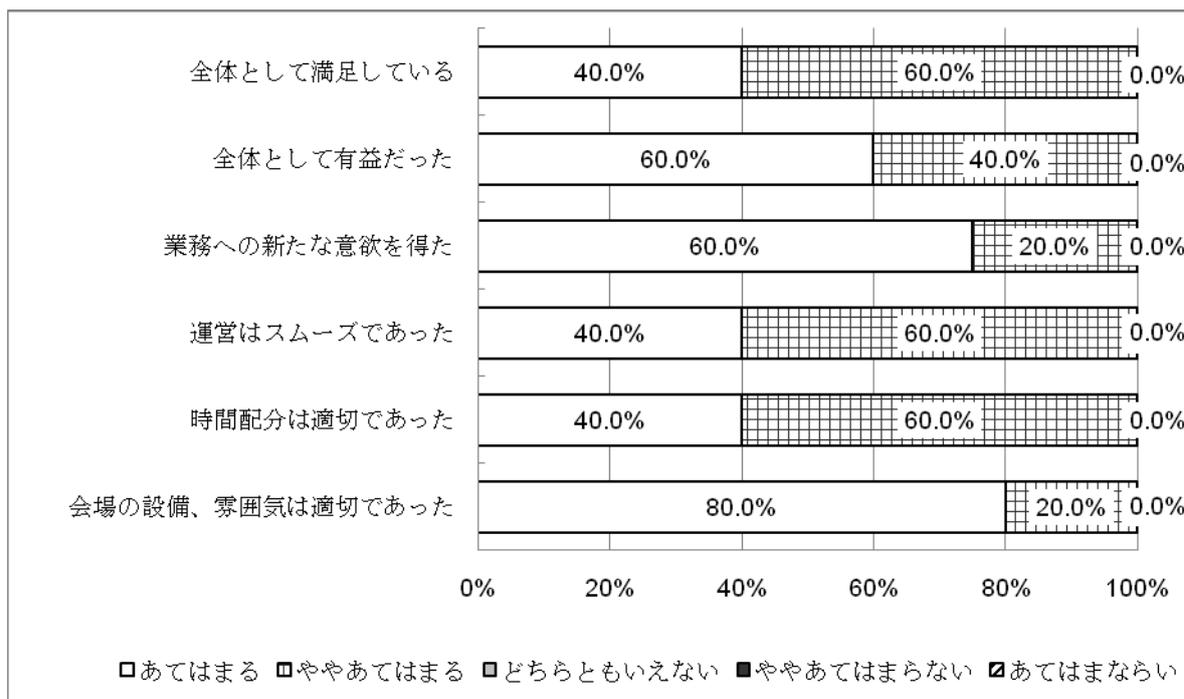
【企画・実施】 評価・FD教育改善専門部会

【参加者】

6名（受講証発行対象者：6名）

所属	職名	人数
医歯薬学総合研究科（医）	助教	2
医歯薬学総合研究科（保）	助教	1
医歯薬学総合研究科（歯）	教授	1
医歯薬学総合研究科（薬）	助教	1
病院	助教	1

【参加者からの評価】



○今回、参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- ・知りたいことをありがとうございます。（医歯薬学総合研究科・助教）
- ・小人数で各自の問題点を挙げて討論できたので勉強になった。（医歯薬学総合研究科・助教）
- ・教育業績がもっと評価されれば我々の側にも教員の教育態度が変わるのではないかと思った。（医歯薬学総合研究科・助教）
- ・NU-WEBのことで授業公開のサイト、ループリック、REAS、ティーチング・ポートフォリオについてなど多くの有意義な情報が得られた。（医歯薬学総合研究科・助教）

○内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入ください。

- ・内容・方法ともに妥当（医歯薬学総合研究科・助教）

【総括】

〈概要〉

授業設計にとって不可欠のシラバスの役割、書き方についての一般的な解説が行われた。

参加者にはあらかじめシラバスの提示を求めていたとのことで、保健学科から提出があったので、資料に基づき、提出者の説明を受けた。これを元に所属する分野でのシラバスの概要、作成時の問題点等につき、参加者と講師、そして、担当者を含めて議論がなされた。

今回のFDの資料及び説明に関し、隣同士の2人の間でディスカッションが行われ、その後、各参加者か

ら意見や質問を聴取し、ディスカッションが行われた。

〈講評〉

今回参加した新任教員は全員が若い助教であったため、シラバス作成に直接関わった経験がある人は一人だけであった。しかし、参加者全員がすでに教育に携わっているため、この時期にシラバスについて概要を理解しておくことは不可欠であると思われ、意義のあるFDであると感じられた。

〈改善点〉

現在シラバスはNU-Web system になっているので、コンピューター端末画面を実際に投影しながら説明を受けるとよかったと思う。

その他、授業評価と教育改善、現場での教育上の問題点等につき、ディスカッションが行われた。部局により教育内容及び方法が異なることから、共通の話題に絞るにも限界があるが、ディスカッションの内容をさらに吟味できればと感じた。

平成23年度FD・SDサマーワークショップ参加者一覧(4日目午後)

平成23年9月6日(火)13:15-15:30

[新任教員] A 授業創造入門 場所:事務局第5会議室

NO	氏名	フリガナ	所属	役職名
1	遠藤 大輔	エンドウ ダイスケ	医歯薬学総合研究科 (医)	助教
2	福田 智美	フクダ トモミ	医歯薬学総合研究科 (医)	助教
3	金丸 由美子	カナマル ユミコ	医歯薬学総合研究科 (保)	助教
4	池田 通	イケダ トオル	医歯薬学総合研究科 (歯)	教授
5	宮元 敬天	ミヤモト ヒロタカ	医歯薬学総合研究科 (薬)	助教
6	穂山 直太郎	アキヤマ ナオタロウ	病院	助教

FD担当者(評価・FD教育改善専門部会委員)

長崎大学FD・SDサマーワークショップ

⑧「新任教員へのメッセージ -B WebClass 活用入門-」

【趣 旨】

FD・SD サマーワークショップは、本学の教職員が、授業改善やコミュニケーション、教育支援等において十分に持ち味を生かせるようになることを目指している。ニーズの高い内容を精選し、実践にすぐにつながる学習形態を取り入れることにより、後期からの業務や授業の改善に効果が期待できる。

【対 象】 おもに新任教員が対象ですが、どなたでも参加できます

【日 時】 平成23年9月6日（火）13:15-15:30

【場 所】 文教キャンパス 情報メディア基盤センター 第2端末室

【定 員】 30名

【概 要】

eラーニングのシステムを活用することで、教材の配布や蓄積が容易になるだけでなく、学生の予復習や自学自習を促進することもできる。本学で導入している学習管理システム WebClass を実際に使いながら、その基本的機能を習得することで授業方法の改善に役立つ。最初は面倒に感じる点もあるが、慣れると使い勝手がよくなる。すでに全学で WebClass を活用している科目（コース）数は約280（平成22年度実績）で、年々増加している。

【講 師】

丸田 英徳 助教（情報メディア基盤センター）

【内 容】

- ① WebClass の特徴と活用例の紹介
- ② 実際にシステムを使いながら、基本的機能（資料提示、会議室、学習履歴、学習評価やアンケートなど）を順次学習
- ③ 授業での効果的活用法と留意点の説明

【到達目標】

- ① WebClass の基本的機能（資料提示、会議室、学習履歴、学習評価やアンケートなど）を操作できる
- ② 授業で活用する際に、WebClass の基本的機能を効果的に組み合わせることができる
- ③ 授業で WebClass を活用する際の留意点を説明することができる

【主 催】 教務委員会

【企画・実施】 評価・FD教育改善専門部会

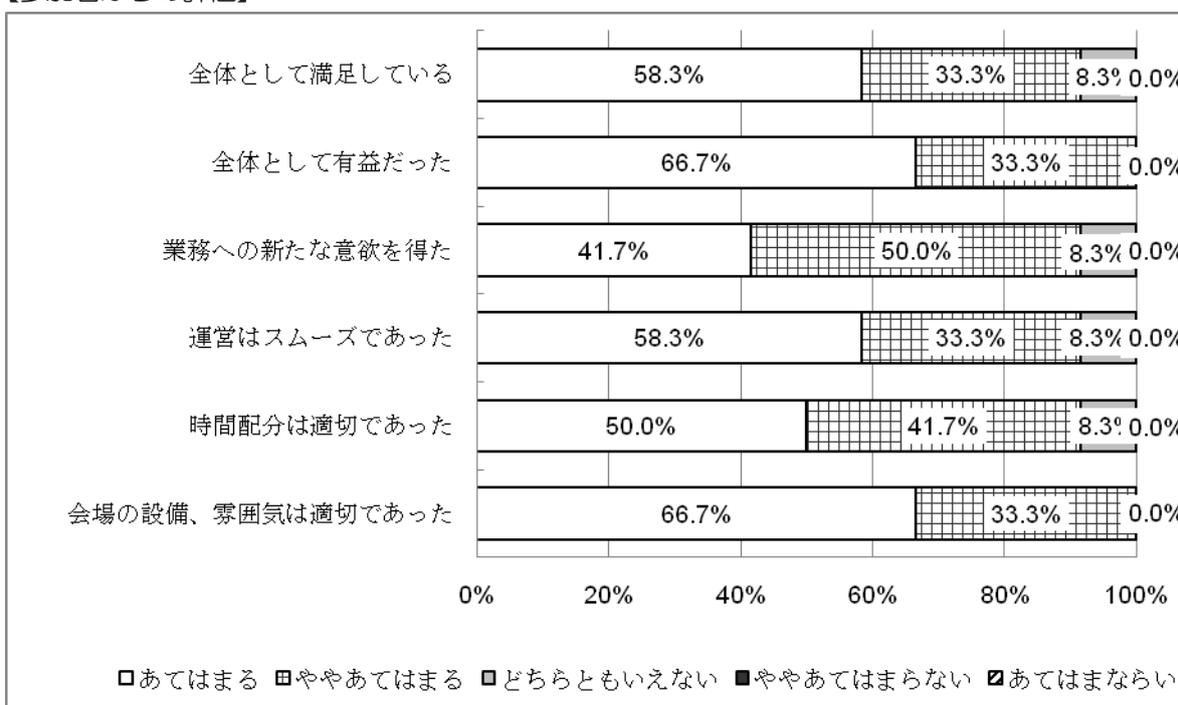
【協 力】 情報メディア基盤センター

【参加者】

16名（受講証発行対象者：16名）

所 属	職名	人数
教育学部	教授	1
医歯薬学総合研究科（医）	助教	4
	研究員	1
医歯薬学総合研究科（保）	助教	1
	教授	2
医歯薬学総合研究科（薬）	准教授	1
	助教	1
工学研究科	准教授	1
水産・環境科学総合研究科（環）	教授	1
	准教授	1
病院	講師	1
情報メディア基盤センター	教授	1

【参加者からの評価】



○今回、参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- ・ひとまず使ってみようと思った。（医歯薬学総合研究科・助教）
- ・講義でチャレンジしてみたい。（医歯薬学総合研究科・准教授）
- ・直前の電話（当日）で参加させていただきありがとうございました。（医歯薬学総合研究科・助教）
- ・今回のセミナーでWebClaasの新しい機能を学習することができて大変勉強になった。説明も分かりやすかった。ありがとうございます。（医歯薬学総合研究科・研究員）
- ・私の授業が変わると思う。ありがとうございました。（教育学部・教授）
- ・WebClaasの基本的な使い方が理解できた。（医歯薬学総合研究科・助教）
- ・親切丁寧に教えていただきありがとうございました。授業で是非活用したいと思う。（環境科学部・教授）
- ・WebClaas等の授業、講義に大切なFDは対象を全ての教員とすべきで、「新任教員へのメッセージ」などが入ると参加しにくい。内容は素晴らしいので同様の講習を何度か聞いてほしい。（病院・講師）
- ・説明は良く分かったが、使ってみないと分からない。（薬学部・教授）

【総括】

参加者は、WebClassの機能を学習し、情報メディア基盤センターの端末を使って実習を行った。

「Webによる授業資料の配布、予習・復習用教材の提供」、「Webを通じた課題の連絡・受理」等を簡単に行うことができることを理解した。本講座の時間中には十分な演習がとれなかったため、消化不良感があったが、参加者は、「WebClass」が学生に対する講義、演習に、「予習→授業→復習」からなる真に実質的な学習を促し、対面式授業の教育効果を高める上で有用なツールであることを実感したと思われる。

今後、参加教員が自分の担当講義の受講者データ、教材を使い「WebClass」を使って、講義、演習等の改善を図っていくことを期待したい。本講座は、「新任教員へのメッセージWebClassの活用」として、新任教員向けに開講したが、全ての教員に活用を促したい。

平成23年度FD・SDサマーワークショップ参加者一覧(4日目Web)

平成23年9月6日(火)15:45-17:30

[新任教員] B WebClass活用入門 場所:情報メディア基盤センター第2端末室

NO	氏名	フリガナ	所属	役職名
1	松尾 博臣	マツオ ヒロオミ	教育学部	教授
2	遠藤 大輔	エンドウ ダイスケ	医歯薬学総合研究科(医)	助教
3	七條 和子	シチジョウ カズコ	医歯薬学総合研究科(医)	助教
4	Briganti James	ブリガンティ ジェイムス	医歯薬学総合研究科(医)	助教
5	松山 睦美	マツヤマ ムツミ	医歯薬学総合研究科(医)	COE研究員
6	ロースフェルト ルーク	ロースフェルト ルーク	医歯薬学総合研究科(医)	助教
7	金丸 由美子	カナマル ユミコ	医歯薬学総合研究科(保)	助教
8	北里 海雄	キタザト カイオ	医歯薬学総合研究科(薬)	准教授
9	田中 正一	タナカ マサカズ	医歯薬学総合研究科(薬)	教授
10	西田 孝洋	ニシダ コウヨウ	医歯薬学総合研究科(薬)	教授
11	宮元 敬天	ミヤモト ヒロタカ	医歯薬学総合研究科(薬)	助教
12	馬越 啓介	ウマコシ ケイスケ	工学研究科	准教授
13	小林 寛	コバヤシ ヒロシ	水産・環境科学総合研究科(環)	准教授
14	西久保 裕彦	ニシクボ ヒロヒコ	水産・環境科学総合研究科(環)	教授
15	趙 成三	チョウ ソンサミ	病院	講師
16	野崎 剛一	ノザキ コウイチ	情報メディア基盤センター	教授

FD担当者(評価・FD教育改善専門部会委員)

長崎大学FD・SDサマーワークショップ

⑩「コミュニケーション講座 -わかりやすい話し方のコツ-」

【趣 旨】

FD・SD サマーワークショップは、本学の教職員が、授業改善やコミュニケーション、教育支援等において十分に持ち味を生かせるようになることを目指している。ニーズの高い内容を精選し、実践にすぐにつながる学習形態を取り入れることにより、後期からの業務や授業の改善に効果が期待できる。

【対 象】 全教職員（非常勤を含む）

【日 時】 平成23年9月8日（木）13:15-17:30

【場 所】 文教キャンパス 事務局第5会議室（教育学部本館2階）

【定 員】 30名

【概 要】

授業や研究発表、会議等の場面では、話す内容のみならず、相手に伝えるための「話し方」が重要なポイントとなる。あの人の話は聞きやすい、わかりやすい、と言われるためには何が必要なのか？本ワークショップでは外部講師として話し方講師の小田切めぐみ先生をお招きし、アナウンサーと同様の訓練を交えながら、伝わる声、伝わる話し方をするためのコツについてお話し頂いた。受講者は日本語の音声技術を、発声・発音などの基礎から学び、聞き手と向き合うことのできる話し方について考えた。

【講 師】

小田切 めぐみ 話し方講師（東京農工大学非常勤講師・文京学院大学非常勤講師）

【内 容】

① 届く声を出すための練習

日本語をわかりやすく音声表現するためのトレーニング

（呼吸法・発声法／発音・滑舌練習／アクセント・イントネーション・ポーズ）

② 伝わる話し方の練習

言葉の力でわかりやすく伝えるためのトレーニング

（歯切れよく、メリハリをつけて読む／見たものを明確に伝える／聞いたことを簡潔に伝える／方法や状況を正確に伝える）

【到達目標】

- ① スピーチに求められる適切な発音・発声法の基本について説明することができる
- ② 自分の話し方・伝え方のクセに気づいて修正することができる
- ③ 聞きとりやすい発声・発音を用いて相手に伝わるように話すことができる

【主 催】 教務委員会

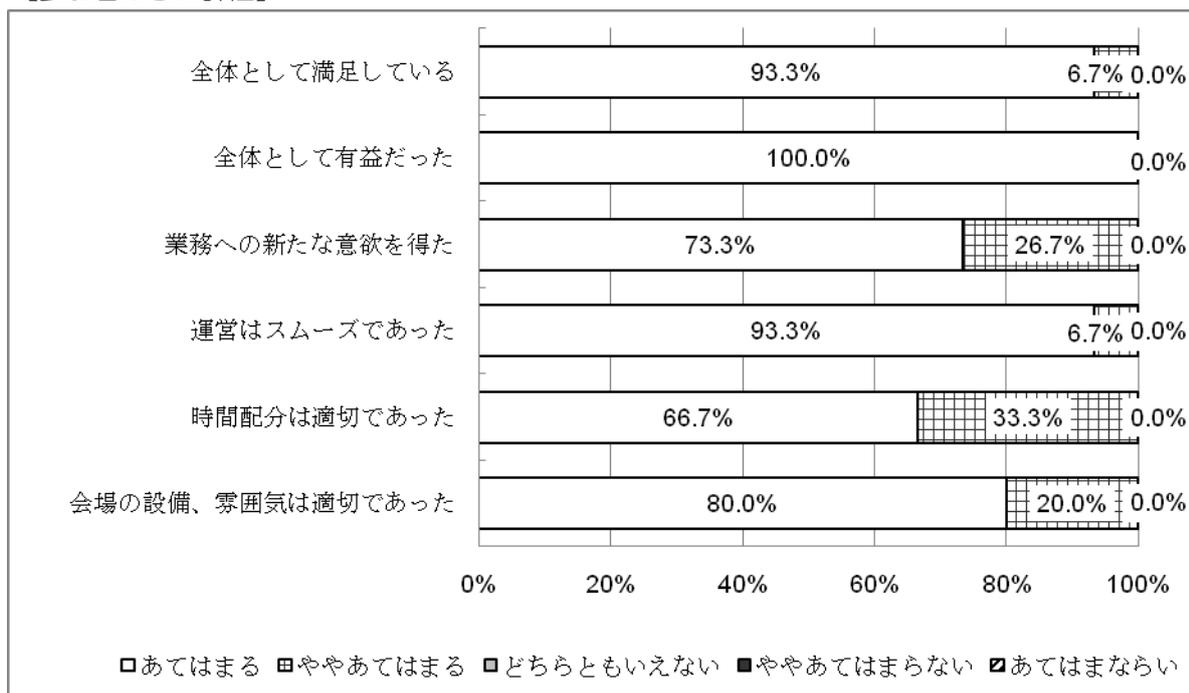
【企画・実施】 評価・FD教育改善専門部会

【参加者】

18名（受講証発行対象者：17名）

所 属	職名	人数
学生支援部	事務補佐員	1
教育学部	准教授	1
医歯薬学総合研究科（医）	教授	1
	助教	2
医歯薬学総合研究科（保）	研究員	1
	准教授	1
医歯薬学総合研究科（歯）	助教	1
	教授	1
医歯薬学総合研究科（薬）	准教授	1
	助教	1
水産・環境科学総合研究科（環）	教授	1
	准教授	1
病院	准教授	2
	助教	1
大学教育機能開発センター	非常勤講師	2

【参加者からの評価】



○今回、参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- ・先生の声がとても魅力的で是非コツを習得したいと思った。内容も分かりやすく、大変有意義であった。（病院・准教授）
- ・2年連続参加、勉強になった。（病院・助教）
- ・大変有益であった。自分の話すスピードが速すぎるなど、今まで気づかなかった点があった。（医歯薬学総合研究科・教授）
- ・自分で参加して、皆の前で発表し、自分の姿をビデオで見返す事で、自分の話し方のくせに気づくことができた。とても勉強になった。（医歯薬学総合研究科・研究員）
- ・ビデオに撮って、自分をふりかえることができた。（医歯薬学総合研究科・准教授）
- ・大変ためになった。音読の練習をしたいと思う。（水産・環境科学総合研究科・准教授）

- ・たくさん新しい発見があり、とても勉強になった。(環境科学部・教授)
- ・とても良かった。また参加したい。(学生支援部・事務)
- ・ビデオで自分の会話の悪さ(厳しくはあるか)がはっきり分かったのがよかった。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・大変勉強になった。今後の講義に活かしたい。(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・Brilliant! (非常勤講師)
- ・今回の講座を受講したことで、自分自身の授業の進め方(伝え方)をよりよいものにしたいという意欲の沸くものであった。是非長崎大学の生徒さんにも受講してもらいたいと思った。(非常勤講師)

○内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入ください。

- ・後半の実習だけをもっと徹底してもいいかもしれない。(病院・助教)
- ・3時ごろ小休憩を取りましたが、少し長めがよかったかと思う。また、講座の終了を30分早めて、講座後、その30分をアンケートの記入あるいは、先生を交えてのプチ反省会などにあてることができたら、出席されていた方々とも感想を分かち合うことができたのではと思った。ワークショップの内容を、印刷していただき大変有難かった。講座の様子をビデオに撮っていたので、小田切先生が朗読した箇所など特にもう一度聞いてみたいと思った。(非常勤講師)

○今後、FD・SDのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入ください。

- ・アクティブラーニングについて、2つ受講したが、素晴らしい話ではあるが、やはり手のかかる授業になっている。「手抜きのできる授業」のFDはないか。(医歯薬学総合研究科・教授)
- ・そのまま(非常勤講師)
- ・英語共通指導項目に関するワークショップ、英語の模範授業などあったら、興味深いと思う。(非常勤講師)

【総括】

定員30名に対して26名の参加と毎年人気のFDである。大学での講義を担当していて話し方に対する苦手意識や、学生に伝わる話し方の工夫についての教員の欲求が反映されているのであろう。外部講師による講演内容は実践的であり、わかりやすく、自分のみならず、学生の発表指導にも生かすことができる内容で、アンケートからも受講者の満足度が高いと言える。個々の感想からも、受講者自身のスキルアップに直結する内容であったため、充実していたことが伺える。話し方がテーマであったが、この講演のスタイル(内容構成)がまさに授業を計画する上で参考になるのではなかろうか。授業を通して単に言葉で理論や理屈や知識を与えるのではなく、理解した上で実践トレーニング、実践を通しての自己理解、そしてスキルアップ。こうした教育要素と講師と受講者の密なコミュニケーションを通じた相互理解。これらのエッセンスを授業に取り込んで行くと、より良い、教育効果の高い授業が作れるのではないだろうか。FDでは、「わたしはこのような授業をやっています」という発表の講演が多い印象だが、今回のようなスキルアップを実感できるFDを増やして行くべきなのかもしれない。

平成23年度FD・SDサマーワークショップ参加者一覧(5日目)

平成23年9月8日(木)13:15-17:30

[コミュ] わかりやすい話し方のコツ 場所:事務局第2会議室

NO	氏名	フリガナ	所属	役職名
1	遠藤 大輔	エンドウ ダイスケ	医歯薬学総合研究科(医)	助教
2	後藤 信治	ゴトウ シンジ	医歯薬学総合研究科(医)	助教
3	西田 教行	ニシダ ノリユキ	医歯薬学総合研究科(医)	教授
4	松山 睦美	マツヤマ ムツミ	医歯薬学総合研究科(医)	COE研究員
5	荒木 美幸	アラキ ミユキ	医歯薬学総合研究科(保)	准教授
6	金丸 由美子	カナマル ユミコ	医歯薬学総合研究科(保)	助教
7	根本 孝幸	ネモト タカユキ	医歯薬学総合研究科(歯)	教授
8	北原 隆志	キタハラ タカシ	医歯薬学総合研究科(薬)	准教授
9	宮元 敬天	ミヤモト ヒロタカ	医歯薬学総合研究科(薬)	助教
10	飯間 雅文	イイマ マサフミ	水産・環境科学総合研究科(環)	准教授
11	西久保 裕彦	ニシクボ ヒロヒコ	水産・環境科学総合研究科(環)	教授
12	河野 哲也	カワノ テツヤ	病院	助教
13	久保 至誠	クボ シセイ	病院	准教授
14	福島 千鶴	フクシマ チズ	病院	准教授
15	ローン 悦子	ローン エツコ	大学教育機能開発センター	非常勤講師
16	ローン マリー	ローン マリー	大学教育機能開発センター	非常勤講師
17	永石 染子	ナガイシ ソメコ	学生支援部	事務補佐員

FD担当者(評価・FD教育改善専門部会委員)

受講証明書

〇〇〇〇

〇〇 〇〇 殿

下記のとおり第 68 回長崎大学FD・SD サマーワークショップを受講したことを証明します。

記

1. 日 時 平成 23 年 8 月 30 日(火), 9 月 2 日(金), 5 日(月), 6 日(火), 8 日(木)

2. テーマ

新任教授へのメッセージ	－長崎大学の課題と展望－	
学生の理解と支援のために	－A 学生参加の教育改善へ－	
アクティブ・ラーニング講座3	－A 多人数討論型の授業方法－	
アクティブ・ラーニング講座3	－B 自然科学のPBL事例－	
アクティブ・ラーニング講座3	－C 学習意欲をデザインする－	
学生の理解と支援のために	－B 長大生の特徴と課題－	
新任教員へのメッセージ	－A 授業創造入門－	
新任教員へのメッセージ	－B WebClass活用入門－	
コミュニケーション講座	－わかりやすい話し方のコツ－	

平成 23 年 月 日

長崎大学大学教育機能開発センター長
橋本 健 夫

平成23年度FD・SDサマーワークショップ

No.	氏名	所属	役職名	8月30日	9月2日		9月5日		9月6日			9月8日
				9:30-12:30 [新任教授へのメッセージ] 長崎大学の課題と展望 事務局第2会議室	10:00-12:00 [学生の理解と支援のために] A 学生参加の教育改善へ 事務局第5会議室(教育学部本館2階)	13:15-17:30 [アクティブ・ラーニング講座3] A 多人数討論型の授業方法 事務局第5会議室(教育学部本館2階)	10:00-12:00 [アクティブ・ラーニング講座3] B 自然科学のPBL事例 事務局第5会議室(教育学部本館2階)	13:15-17:30 [アクティブ・ラーニング講座3] C 学習意欲をデザインする 事務局第5会議室(教育学部本館2階)	10:00-12:00 [学生の理解と支援のために] B 長大生の特徴と課題 事務局第5会議室(教育学部本館2階)	13:15-15:30 [新任教員へのメッセージ] A 授業創造入門 事務局第5会議室(教育学部本館2階)	15:45-17:30 [新任教員へのメッセージ] B WebClass活用入門 情報メディア基盤センター第2端末室	13:15-17:30 [コミュニケーション講座] わかりやすい話し方のコツ 事務局第5会議室(教育学部本館2階)
1	堀井 健一	教育学部	教授		○							
2	松尾 博臣	教育学部	教授		○	○			○	○		○
3	寺嶋 浩介	教育学部	准教授						○			
4	赤石 孝次	経済学部	教授			○						
5	高木 かおる	経済学部	教授		○	○						
6	深浦 厚之	経済学部	教授	○								
7	丸山 幸宏	経済学部	教授			○			○			
8	西村 宣彦	経済学部	准教授			○			○			
9	李 桃生	医歯薬学総合研究科(医)	教授	○								
10	久保 嘉直	医歯薬学総合研究科(医)	准教授						○			
11	田中 邦彦	医歯薬学総合研究科(医)	准教授		○	○						
12	安武 亨	医歯薬学総合研究科(医)	准教授			○						
13	井原 誠	医歯薬学総合研究科(医)	助教				○					
14	七條 和子	医歯薬学総合研究科(医)	助教								○	
15	浦田 芳重	医歯薬学総合研究科(医)	助教				○					
16	遠藤 大輔	医歯薬学総合研究科(医)	助教		○	○	○	○	○	○	○	○
17	後藤 信治	医歯薬学総合研究科(医)	助教									○
18	西田 教行	医歯薬学総合研究科(医)	教授				○					○
19	福田 智美	医歯薬学総合研究科(医)	助教					○		○		
20	ブリガンティ ジェイムス	医歯薬学総合研究科(医)	助教								○	
21	ロースフェルト ルーク	医歯薬学総合研究科(医)	助教								○	
22	松山 睦美	医歯薬学総合研究科(医)	COE研究員								○	○
23	平野 裕子	医歯薬学総合研究科(保)	教授	○								
24	本田 純久	医歯薬学総合研究科(保)	教授	○								
25	荒木 美幸	医歯薬学総合研究科(保)	准教授									○
26	金丸 由美子	医歯薬学総合研究科(保)	助教		○	○	○	○		○	○	○
27	川崎 涼子	医歯薬学総合研究科(保)	助教			○						
28	河村 靖子	医歯薬学総合研究科(保)	助教			○	○					
29	池田 通	医歯薬学総合研究科(歯)	教授						○	○		
30	齋藤 俊行	医歯薬学総合研究科(歯)	教授					○				
31	根本 孝幸	医歯薬学総合研究科(歯)	教授			○	○					○
32	真鍋 義孝	医歯薬学総合研究科(歯)	教授	○								
33	渡邊 郁哉	医歯薬学総合研究科(歯)	教授	○								
34	田中 正一	医歯薬学総合研究科(薬)	教授								○	
35	北里 海雄	医歯薬学総合研究科(薬)	准教授		○	○	○				○	
36	北原 隆志	医歯薬学総合研究科(薬)	准教授									○
37	近藤 新二	医歯薬学総合研究科(薬)	准教授		○							
38	西田 孝洋	医歯薬学総合研究科(薬)	教授						○	○	○	
39	宮元 敬天	医歯薬学総合研究科(薬)	助教						○	○	○	○
40	田崎 修	病院	教授	○								
41	浜田 久之	病院	教授	○								
42	福島 千鶴	病院	准教授									○
43	久保 至誠	病院	准教授									○
44	趙 成三	病院	講師								○	
45	稲山 直太郎	病院	助教					○		○		
46	河野 哲也	病院	助教									○
47	安田 二郎	熱帯医学研究所	教授	○								
48	木村 正成	工学研究科	教授	○								
49	馬越 啓介	工学研究科	准教授					○			○	

No.	氏名	所属	役職名	8月30日	9月2日		9月5日		9月6日			9月8日
				9:30-12:30 [新任教授へのメッセージ] 長崎大学の課題と展望 事務局第2会議室	10:00-12:00 [学生の理解と支援のために] A 学生参加の教育改善への 事務局第5会議室(教育学部本館2階)	13:15-17:30 [アクティブ・ラーニング講座3] A 多人数討論型の授業方法 事務局第5会議室(教育学部本館2階)	10:00-12:00 [アクティブ・ラーニング講座3] B 自然科学のPBL事例 事務局第5会議室(教育学部本館2階)	13:15-17:30 [アクティブ・ラーニング講座3] C 学習意欲をデザインする 事務局第5会議室(教育学部本館2階)	10:00-12:00 [学生の理解と支援のために] B 長大生の特徴と課題 事務局第5会議室(教育学部本館2階)	13:15-15:30 [新任教員へのメッセージ] A 授業創造入門 事務局第5会議室(教育学部本館2階)	15:45-17:30 [新任教員へのメッセージ] B WebClass活用入門 情報メディア基盤センター第2端末室	13:15-17:30 [コミュニケーション講座] わかりやすい話し方のコツ 事務局第5会議室(教育学部本館2階)
50	中川 啓	水産・環境科学総合研究科(環)	教授	○								
51	西久保 裕彦	水産・環境科学総合研究科(環)	教授	○					○		○	○
52	飯間 雅文	水産・環境科学総合研究科(環)	准教授									○
53	岡田 二郎	水産・環境科学総合研究科(環)	准教授		○	○	○	○				
54	小林 寛	水産・環境科学総合研究科(環)	准教授								○	
55	亀田 和彦	水産・環境科学総合研究科(水)	教授	○								
56	池田 光孝	アドミッションセンター	助教				○					
57	久保 隆	産学官連携戦略本部	助教				○					
58	野崎 剛一	情報メディア基盤センター	教授								○	
59	大橋 絵理	大学教育機能開発センター	准教授			○						
60	劉 卿美	大学教育機能開発センター	准教授			○	○					
61	ローン 悦子	大学教育機能開発センター	非常勤講師									○
62	ローン マリー	大学教育機能開発センター	非常勤講師									○
63	高木 貞治	学術情報部	課長		○				○			
64	平林 昇	学術情報部	主査		○							
65	山本 知美	学術情報部	主査		○				○			
66	後藤 史彦	学術情報部	事務職員						○			
67	品川 幸夫	経済学部	係長		○							
68	岩見 春輔	経済学部	大学院係長		○				○			
69	木附 信慶	経済学部	主任		○				○			
70	富田 高廣	国際連携研究戦略本部	主査		○				○			
71	宮原 俊夫	学生支援部	課長		○							
72	多良 安正	学生支援部	主任		○				○			
73	杉本 博幸	学生支援部	専門職員						○			
74	永石 染子	学生支援部	事務補佐員									○
				13	18	16	12	11	15	6	16	17

FD担当者(評価・FD教育改善専門部会委員)